

令和6年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 单元ごとに決めたキーフレーズを使って、友達や先生と会話を続けることができるようになってきた。
- ・ 外国人講師を活用して、プレゼンテーションの仕方、異文化理解、国際理解につなげることができた。
- ・ 日本語を介さず、英語を使って自分の思いや考えを伝えようとする意識は高くなった。

(2) 課題

- ・ 单元のまとめのプレゼンテーションで、新出表現は使う意識が高くて、既習表現の使う意識が低い。
- ・ アルファベットには、それぞれ特有の音（フォニックス）があることは理解できたが、音とアルファベットの一致が難しい児童が一定数いる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第6学年	+4.5	±0	+2.3

(2) 分析（観点別）

① 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 目標値を5%以上上回った。語句理解、会話のやりとりはよくできている。一方で、活字と音の一致に苦手意識のある児童が多いことが分かる。	・ 選択問題は概ねよくできているが、与えられた情報を基に、英文で書き表すことについては目標値よりも正答率が下がっているものが多い。	・ 学習に対して、自分のなりの目標を立てて取り組むことができおり、毎時間の振り返りも多くの子はできている。ただし、個別に声をかけて、目標やめあてを一緒に確認する必要がある児童もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 英語には、アルファベットそれぞれに異なる発音があることを歌ややり取りを通して理解させ、音とアルファベットを一致させることができるようにする。 ・ 発音が似ている言葉を意識的に教師が使い、児童に small talk の内容を理解させたり、教師が使っていた言葉を繰り返し発音させたりするようにする。 ・ 「やりとり」を続けるために、相槌を打ったり、共感したりしたことを伝える語句を理解させ、small talk で積極的に使わせる。	・ コミュニケーションを行う場面や目的をはっきりさせ、既習表現の言葉を使ったり、新しく学習する言葉の意味を推測したりできる場を授業の始まりに設定する。 ・ 児童の思いや考えを丁寧に聞き取り、既習の表現を使って相手に伝えられないかどうか、プレゼンテーションや会話を行う場面で考える機会を設定する。 ・ 相手に自分の思いや考えをよりよく伝えるためには、話す内容の順番を考えさせたり、非言語コミュニケーションの重要性を理解させたりして、発表に向けたワークシートや動画撮影を行わせる。	・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深めたり、自国の文化と比較して特徴を探したりできるように、ALT の出身国の紹介や日本との比較を small talk や warm-up に取り入れる。 ・ 学習課題を自分で設定し、単元の目標に向けて取り組んでいる自分の学習の様子を振り返られるよう、ポートフォリオの要素を加えたワークシートを書かせたり、動画撮影して自分の様子を見直したりする活動を取り入れ、学習を調整する機会を設ける。